

27年度 音楽科（一般・器楽）

教科書選定の観点

- (1) 音楽科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- (2) 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。
- (3) 興味・関心や生活経験に目を向けた題材や内容構成で、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。
- (4) ア. 一般については、我が国および諸外国における教育的・芸術的に価値のある楽曲が取り上げられ、音楽のよさや美しさに触れ、豊かな情操を養うことができるよう教材が工夫されていること。
イ. 器楽については、音色の美しさや演奏の楽しさに触れるため、我が国及び諸外国における弦楽器・管楽器・打楽器等の様々な楽曲が古典から現代にわたってバランスよく取り上げられるなど、豊かな情操を養うことができるよう教材が工夫されていること。
- (5) 「表現」及び「鑑賞」に関する内容相互の関連が図られるとともに、授業時数に照らして、全体の分量や難易度が適切であること。
- (6) 多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、尊重する態度の育成を図るとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を育てるよう配慮されていること。
- (7) 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。
- (8) 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連に配慮がされていること。
- (9) 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- (10) 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。